

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立瀬崎中学校
(平成31年2月 7日作成)

1 学校教育目標 『よりよく生きる』 自らの生き方を考え、実践する生徒の育成	
2 重点目標・努力目標 1 わかる授業を展開し、基礎学力の定着を図り、いっそうの学力の向上を目指す。 「基礎・基本の確実な定着を図る」 「学ぶ意欲・関心を高め、個を大切に、きめ細やかな授業展開」実践する。 2 学習規律・生活規律のいっそうの向上、基本的生活習慣の確立を目指す。 「授業の5原則」を徹底させる。 3 学習環境を整備し安心安全で落ち着いた環境づくりに努める。 「学習の場にふさわしい物的環境・言語環境づくりに努める。」 4 昨年度以上に家庭・地域との連携を密にし、期待に応える学校づくりを推進する。 「信頼関係を更に構築し、開かれた学校づくりを行う。」	3 前年度の成果と課題 成果 ○昨年度に引き続き、学校経営方針を周知・徹底し、共通理解を深め経営にあたった。学力向上が図られ、教職員はもとより、通信やHPや会合等で情報発信し、地域とのより深い信頼関係の構築が築けるなど成果が上がった。 ○標準カリキュラムを考慮した小中合同授業等ができた。 課題 ●幼保小中一貫教育を踏まえ学力の更なる向上及び生徒の自主自立に対するより一層の支援、不登校生徒の改善。 ・一人ひとりの違いを認め、個に応じた指導の一層の工夫改善 ・人権教育を含め、道徳の教科化に向けた授業展開の工夫・改善。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営方針を徹底させるために、職員会議、朝の打ち合わせ等で教職員に周知徹底を図るとともに校長室だよりを定期的に発行することで意識の変革を図った。 ○校務分掌組織は、とても計画的且つ効率的に組織されていた。 ○幼保小中一貫教育では、推進委員会を中心に、3校の各部会の先生方が連携し、情報交換や実践など、自発的に取り組めた。

②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○「学力の向上」をめざし、充実した校内研修を計画・実施することができた。 ○幼保小中一貫教育研究発表を目指した、「小中合同研修会」「推進委員会」「リーダー会」等を実施できた。
③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○保健計画、安全計画をもとに、保健指導及び安全教育の充実を推進した。 ○今年度も毎月発行の「保健」「給食」便りで保護者への啓発を行った。 ○危機管理マニュアルのもと、管理職と教職員で毎日安全点検を確実に行之、管理に努めた。更に分掌毎の点検、学期一回の総点検も組織で実施している。
④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報においては、校内規定の順守の徹底を行い、全職員の個人情報の取り扱いについての意識の高揚が図られた。
⑤地域との連携・開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校・家庭メール配信により、地域の不審者発生状況等迅速に発信、注意喚起とともに地域で見守る環境を作ることができた。 ○毎月発行の「学校だより」は保護者と地域（民生委員、町内会）に配布、学校に理解と協力をいただいた。また、学校公開、部活動公開、合唱発表会、地域のお祭り等を設け、積極的に公開した。 ○学校評議員には現状報告会や学校評価をもとにしての意見をいただき、学校経営に取り組んだ。 ●新しい学校ホームページを開設した。更新していく必要あり。
⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○月1回の小中一貫教育推進委員会を行い、夏の合同研修に引き続き、リーダー会を行い、担当毎に連携の取組を進めている。小中共通パソコンホルダを有効活用している。 ○小中乗り入れ授業の取組により、小中間の情報交換や連携をいっそう深めることができた。 ○運動会での合同演技や陸上競技大会前の合同練習など、職員はもちろん、生徒、児童の交流が例年以上に深まった。 ○地域の保育園児の避難訓練での立ち寄り、小学校6年生の一日入学や低学年の児童についても校内見学をするなど、連携が深まった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	B	○教育計画のもと、指導要領の各教科、領域の授業時数の確保を図ることができた。 ○学習指導要領の内容をもとに、学習シラバスや年間全体計画、指導計画も予定通り実施できた。 ●行事による授業時数調整を行っているが、同日の同一教科を避けるためどうしても偏りが否めない。策を検討、改善していきたい。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・わかる授業づくり ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○校内研修としての教科会を行い、学力向上に向け来年度に向けての指導計画の立案、指導方法の改善・工夫に取り組んでいる。 ○一人一回の研究授業を行い、学力向上に向け、教科としての研修を深めた。 ○ＩＣＴを活用した授業が昨年度に比べ多くなり、各教科工夫改善が図れた。 ●外部指導者の人材活用は教科領域にまで至っていない。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○道徳部会を中心に教材選定や資料作りを行う中で道徳時数の完全実施を図った。また道徳の内容を消化するだけでなく、各教科・領域や学校行事との関連を図り、道徳的実践力を向上させることができた。 ○道徳主任を中心に道徳部会が機能した指導法改善・評価の仕方等校内研修を充実させた。また教科科を見据えて研修計画を策定している。
	④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	A	○学級経営は各学級経営計画のもと、計画・実践ができた。 ○生徒会活動では、教師の支援を極力減らす中で、自主的に実践できた。また、各委員会での活動も積極的に行え、学習環境の向上につながった。より生徒の自治能力を高める取り組みを行っていきたい。 ○けや木祭（合唱祭）での３学年による合唱を小中一貫教育研究発表会で披露し、お褒めの言葉が多数寄せられた。

⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫	B	○特色ある取組の一つである「性出会い学習」を通して、調べる・体験する・まとめるを实践させた。また、学校行事を通しての体験活動は成果を収めた。 ●3年間を見通した一層の連続性ある計画的な取組ができるよう研修を深めていきたい。
⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	B	○生徒指導委員会を中心に生活規律の徹底を学年とともに取り組む。子どもを取り巻く時代や環境の変化に対応した。 ○生活習慣（生活・学習）の形成を家庭との連携で重点的に行った。 ●報・連・相の徹底と共通理解をさらに深める生徒指導が必要である。
⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集、活用 ・職場体験活動	A	○1年の職場体験、2年の上級学校訪問を綿密な計画のもと実施し、成果をあげた。3年では、昨年度に引き続き具体的な進路選択について担任を中心に指導することができた。 ○3年生では、県内外の高校の先生を招いての出前授業の取組を新たに取り入れた。3年生は、自身の進路選択を考えながら、意欲的に授業に取り組めた。
⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○学校全体で支援できる体制が整っている。また、通常学級で特別な支援が必要な生徒に対して、委員会や教育支援室等やSCに協力を得て、指導してきた。引き続き研修を深めながら支援をしていきたい。 ○教育相談部会で特別に支援が必要な生徒の一覧や個別カードを作成し、特別支援コーディネーターを中心に、情報の共有を行い、一人ひとりにあった支援方法を確認、実施している。
⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	B	○司書教諭と図書館補助員による整理がなされ、昼休みや放課後の貸し出しなど充実した経営がなされている。 ○季節や長期休業に即した蔵書コーナーの設置や掲示物の充実に取り組み、一人への貸し出し数を増やし図書室に足を運ぶ生徒が増えた。 ○指導計画のもと蔵書の数が増え、教科での図書室の授業が昨年度に比べ増えた。 ○空き教室を活用して、第二図書室を開設した。生徒が本と触れ合う機会を増やすことができた。 ●今後は学級文庫の充実を図っていく。

⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・I C T機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○指導計画をもとに、パソコンの扱い方及び情報モラルについて考えさせる場面を増やした。 ●I C T機器の積極的な活用を図ることができた。多少個人差があり、誰でも活用できるような研修計画をさらに進める必要がある。
⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	A	○計画的に社会の授業を中心に、「ビデオ視聴」や「被差別部落や差別等の資料」を通して人権に対する意識の高揚を図った。

(様式2・中学校用③)

草加市立瀬崎中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力の向上	基礎・基本の充実 ・校内研修	B	○各教科の小テスト、単元テスト、各種コンテストを実施し、基礎・基本の定着を目指すことができた。 ○校内研修も授業改善に役立った。さらに学力を向上させるための授業改善を進めていく。 ○「授業の5原則」の徹底により、授業規律が高まり、学力の向上につながった。 ○小中一貫教育を通して、指導や躰き等の情報交換を行うと共に標準カリキュラムを確認し系統性を持たせる授業が複数教科で実践できた。 ●家庭学習の定着が徐々に図られてきた。小中の系統性をより考慮していきたい。
	基本的生活習慣の確立	・あいさつ ・時間を守る ・学習環境の整備 ・授業の5原則	A	○「礼を正し」「場を清め」「時を守る」の定着が見られた。また、掲示物や机や椅子の整理整頓など学習環境の整備も意識して取り組むことができた。 ○授業の5原則がどの教室にも掲示されており、定着が図れた。(授業の用意・チャイム席・あいさつ・忘れ物・無駄話をしない) ○時計を意識した行動が図れ、全校集会・学年集会・各行事等時間前には静かに整列でき開始することができた。

健康・体力	・健康集会 ・部活動 ・性教育	A	○「性出会い学習」や「健康集会」で命の大切さや健康に過ごすための意識を高めることができた。 ○健康集会では生徒が主体的に調査し、その結果を発表することができた。 ○半数以上の運動部が県南大会以上の大会に駒を進めるなど活躍した。また部活動を通して、豊かな心と健やかな体を育成できた。
-------	-----------------------	---	---

5 総合評価（学校関係者評価を含む）			
○全教職員が「自らの生き方を考え、実践する生徒の育成」を目指し、計画的な研修に取り組んだ。昨年度から幼保小中一貫教育を柱に小中合同研修を積み上げ、学校間・教職員間の情報共有の中で、課題を考察・整理するなど連携し取り組みの成果が現れてきた。 ○「基礎・基本」の定着を目指し、長期休業中に補充学習及び各教科による各種コンテストの実施、毎時間のドリル学習を行い成果も引き続き上がっている。 ○教職員並びに保護者による「あいさつ運動」を実施した。また、生徒会本部役員による本校と小学校での「あいさつ運動」も定着し、挨拶日本一を目指し成果を上げている。集会や行事において もあいさつを重視することにより、「気持ちよいあいさつ」が交わされるようになった。 本校の特色の一つでもあり、今後も力を入れていく。 ○「性出会い学習」「健康集会」は、本校の特色ある教育活動であり、継続していく。命の大切さや人権教育に結び付く成果を上げることができた。 ○生徒、保護者、地域のとの信頼関係がさらに構築され、よりよく生きるための教育活動を実践することができた。（学校の各種行事やHPや各種便りなどの情報配信メールの活用と円滑な防災訓練運営等） ○各学習状況調査の結果から学習に伸びが見られ、学力の向上が図れた。今後も調査・分析を充実し継続して取り組んでいきたい。 ○昨年度に比べ、保護者、地域の方からも高い評価をいただいている。学習面、生活面において、いまだ課題も多いが、学校全体で組織を上げて取り組むことが重要である。教職員個々に常に課題意識を持つこと、そして課題解決能力を身につけ、目指す学校像・生徒像に向けて取り組んでいきたい。			
6 次年度の改善策			
○校内の研究組織を中心に、より一層の研修に励み、学校全体で推進していく。 ○校内での取組 ・学力の向上は、今後も学校としての重要課題として捉えていきたい。また、研究発表を行ったが引き続き「幼保小中一貫」を目指した連携を一層深め、15ヶ年の学びのカリキュラムを実践していきたい。 ・生徒指導に関しては、生徒との関係も向上し、信頼関係も強くなってきた。生徒に寄り添い、対応すること、そして、さらに組織マネジメントを進め、生徒の自主自立の支援をしていく。そのために教師側の指導力のさらなる向上、共通理解・共通行動を図り、気を緩めず安定した生徒指導が図れるよう工夫・改善及び研修の取組をしていきたい。			